

第3節 発展を支える交通ネットワークの充実

1 広域道路ネットワークの構築

●東九州自動車道・大分空港道路

・東九州自動車道は令和4年3月に「津久見IC～佐伯IC」間の一部において、4車線化が新規事業化されることとなりました。引き続き、事業化区間の整備促進及び残る優先整備区間の早期事業化を目指し、国等への要望活動を行います。

●中九州横断道路

・竹田阿蘇道路は令和3年度から用地取得が着手されるなど、事業が進められております。また、県内の残る未事業化区間である「大分～犬飼」間においては、令和4年1月に計画段階評価に着手されました。引き続き、早期事業化を目指し、国へ要望活動を行います。

●中津日田道路

・中津日田道路では全長約55kmのうち、約23kmが供用されており、現在、約27kmの区間（三光本耶馬溪道路（直轄権限代行）、耶馬溪山国道路、日田山国道路）で事業を推進しています。

「三光本耶馬溪道路」においては、令和3年4月に田口IC～青の洞門・羅漢寺IC間の令和5年度開通が公表されました。

また、「耶馬溪山国道路」の新規事業化や、「日田山国道路」では1号トンネル避難坑、5号トンネル本坑の工事を発注するなど整備が進められています。

引き続き、用地取得を促進させるとともに、改良工事を実施し、各工区ともに早期の供用開始を目指します。



三光本耶馬溪道路 整備状況 (青の洞門・羅漢寺IC付近)



日田山国道路 整備状況

調査区間	事業中 (H27事業化)	事業中 (R3事業化)	R3.2 開通	H24.3 開通	事業中 (H19事業化)	H31.3 開通	H27.2 開通	H21.3 開通	H21.3 開通	H27.3 開通		
区間	日田市	日田山国道路	耶馬溪山国道路	耶馬溪道路	本耶馬溪 耶馬溪道路	三光本耶馬溪道路 (直轄権限代行)		中津三光 道路	中津道路	中津港線① (臨港道路)		
延長	約4km	8.8km	約8.5km	5.0km	5.0km	4.7km	5.3km	2.8km	3.0km	2.1km	1.5km	3.4km

【目標指標】

指 標	基準値		R3年度		R6年度	
	年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値
大分市中心部まで概ね60分で到達できる地域の割合	H26	73%	76%	76%	100%	78%
九州の東の玄関口としての拠点化主要施設まで概ね30分で到達できる地域の割合	H26	—	52%	52%	100%	54%
地域高規格道路整備延長	H26	67km	82km	82km	100.0%	100km

【指標による評価】

評価	理 由 等
達成	中津高田線今津工区や都市計画道路富士見通南立石線南立石工区の開通により、目標値を達成した。
達成	中津高田線今津工区や都市計画道路富士見通南立石線南立石工区の開通により、目標値を達成した。
達成	整備を計画的に進め、目標値を達成した。

2 地域道路ネットワークの充実

●地域ネットワークの整備

- ・幹線道路は、渋滞や交通安全上等の課題の多い箇所、インターチェンジへのアクセス道路等の整備を進め、物流効率化や産業の発展、生活利便性の向上に寄与しています。令和3年度は国道388号畑野浦～楠本バイパスなどの整備促進により、地域道路ネットワークの充実を図りました。
- ・異常気象時等においても地域間のネットワークを確保するため啓開ルート上ののり面崩壊対策を推進しています。令和3年度は、豊後高田安岐線など7路線8箇所で行いました。



国道388号 畑野浦～楠本 BP(佐伯市)



啓開ルート 豊後高田安岐線 (国東市)

●中山間地域等の生活道路

- ・既設の道路敷を利用した路肩拡幅や側溝整備等の局所改善を図っています。令和3年度は、藤原杵築線など102箇所で行いました。
- ・災害時の通行止めにより、集落の孤立が発生する可能性のある道路について、道路のり面对策を推進します。令和3年度は、朝田日田線など4路線9箇所で行いました。

《路肩拡幅 実施事例》



藤原杵築線 (日出町)

《道路のり面(落石)対策 実施事例》



朝田日田線 (日田市)

【目標指標】

指 標	基準値		R3年度			R6年度
	年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値
小規模集落から幹線道路へのアクセスを改善した集落数	H26	—	91集落	91集落	100.0%	150集落

【指標による評価】

評価	理 由 等
達成	成仏杵築線中野工区等の開通により、12集落(全91集落)のアクセスが改善し目標を達成した。

3 海上輸送拠点の強化

●港湾機能の強化

○臼杵港

八幡浜へのフェリーが1日14便の過密ダイヤで運航しており、港内では大小様々な船舶が航行しています。

安全な航行の確保並びに港湾機能の強化を図るため、新たなフェリーターミナルの整備を推進しています。



令和3年度実施 岸壁及び埠頭用地造成工

○別府港

「九州の東の玄関口としての拠点化戦略」を進めており、施設の老朽化対応、にぎわい空間創出に取り組んでいます。

令和4年度に就航予定である関西航路のフェリー大型化への対応等、効率的な港湾利用を図るため岸壁等の整備を推進しています。



令和3年度実施 防衝板設置

●交通アクセスの向上

物流の効率化とともに渋滞緩和、安全性の向上等を図るため、臨港道路の整備を推進しています。



令和3年度実施 道路改良工



令和3年度実施 道路改良工

【目標指標】

指 標	基準値		R3年度			R6年度
	年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値
新規バースの整備延長 ※専用岸壁除く	H26	—	130m	130m	100.0%	270m
県内港湾の公共埠頭取扱貨物量	H26	—	43,200千ft	41,428千ft	95.9%	45,000千ft

【指標による評価】

評価	理 由 等
達成	整備を計画的に進め、目標値を達成した。
概ね達成	新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、フェリーやRORO船による物流は回復基調にあり、概ね達成となった。